

Location of the Meso-pancreatoduodenum as a Regional Lymphatic Basin for Pancreatic Head Carcinoma

著者	寺川 裕史
著者別表示	Terakawa Hirofumi
journal or publication title	博士論文要旨Abstract
学位授与番号	13301甲第4500号
学位名	博士（医学）
学位授与年月日	2017-03-22
URL	http://hdl.handle.net/2297/48162



論文内容の要旨及び審査結果の要旨

受付番号 医博甲第 2579 号 氏名 寺川 裕史
論文審査担当者 主査 大井 章史
副査 原田 憲一
源 利成

学位請求論文

題 名 Location of the Meso-pancreatoduodenum as a Regional Lymphatic Basin for Pancreatic Head Carcinoma

掲載雑誌名 Oncology Letters 2017 年掲載予定

膵頭部癌の予後は不良で、剥離面、切除断端の局所再発が多い。進行消化器癌の手術では、微小な転移や浸潤を考慮し、癌巣近傍のリンパ節に加えて、流入する栄養血管に沿ったリンパ節（中間リンパ節）、あるいは栄養血管の根元にあるリンパ節（主リンパ節）を系統的に切除する目的で、栄養血管を中心とした「間膜」の一括切除が標準的に行われ、予後改善、局所再発予防に貢献している。最近、膵頭部にも間膜（mesopancreas）が存在し、癌では間膜の全切除を行うべきとの考えが注目されている。しかし、膵臓は、発生学的に背側膵臓芽と腹側膵臓芽が癒合し形成され、腹腔臓器では最も上腸間膜動脈（SMA）の起始部に近く、SMA と腹腔動脈との間に挟まれる部位で大動脈をまたいで後腹膜上に固定されているという複雑な解剖であり、膵頭部の間膜は明確な解剖学的構造物として判別できるものでなく、領域としてとらえるべき存在といわれる。また、胎生期の膵の発生から考えると、膵頭部の大部分を占める腹側膵は十二指腸と間膜を共有しており、膵頭部の間膜は正確には膵十二指腸間膜[mesopancreatoduodenum (meso-pd)]とすべきである。本研究では、膵頭部癌に対する系統的な meso-pd の一括切除を行うため、その位置と範囲を、栄養血管の走行、組織の連続性から検討した。

まず、膵癌術前に行われた MDCT で、膵頭部の栄養血管である下膵十二指腸動脈（IPDA）の走行を評価した。その結果、IPDA は従来いわれていたように SMA の右側からではなく、SMA の左側 5 時方向を中心に分岐して背側を回り込むように走行し、膵頭部に達していることがわかった。

次に、膵頭部癌切除標本と解剖学教室に提供された御遺体の大動脈、下大静脈、膵臓を一括に切り出した標本を用いて、meso-pd の位置と範囲を検討した。meso-pd は、脂肪織の中に支持組織として弾性線維、膠原線維が一定の方向性を持って連続性に走行し、その線維に寄り添いリンパ管、神経が存在する構造で、SMA の右側にのみ存在するのではなく、栄養血管である IPDA に沿って SMA の背側から左側にまで回り込むように存在していた。

以上より、膵頭部癌では、従来言われてきた SMA 右側の郭清では不十分であり、IPDA が分岐する SMA の左側から背側までを領域含めた、系統的な meso-pd の一括切除を行う必要があると推察された。

本研究は、予後不良といわれる膵頭部癌に対する、微小な転移、浸潤を考慮した系統的な「間膜」の一括切除を過不足なく行うため、meso-pd の領域を解明したすぐれた研究であり、本学の学位授与に値するものと評価された。